

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600027		
法人名	株式会社 ナックス		
事業所名	グループホーム ぬくもりの家 揖斐		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町島291-1		
自己評価作成日	平成29年6月25日	評価結果市町村受理日	平成29年8月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JiyosyoCd=2192600027-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成29年7月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境の中、色彩あふれる草花で四季を感じて頂ける庭づくりに力を入れています。居室やフロアにも生花を飾り、心安らぐあたたかみのある雰囲気づくりに心がけています。居室は利用者様の唯一ほっと出来る場所であり、大切な人生最後を迎える場所でもあります。ぬくもりの家でよかったと言って頂ける様職員一同専門職の方々と連携を図り、皆様にご満足ご納得の頂ける様向上心を持って支援をさせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設9年目のホームは、地域に自然に溶け込み、同法人4つの事業所との合同交流会には、多くの利用者が参加している。職員は、利用者それぞれの好みや能力を把握し、畑の手入れや庭の草取り、室内に飾っている花の水替えなどを、利用者が役割をもつて、関われるよう支援している。また、職員と共に収穫した野菜を採り入れた献立づくりや食事作りなども、楽しみながら一緒に行っている。代表者及び管理者と職員との信頼関係もできており、事業所全体のチームワークの良さが感じられ、職員の離職も少ないことから、利用者の安心感にも繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の全体会議で、全員で名札の裏面に記載してある運営理念を読みあげ再確認し意識の向上に努めている。管理者は理念を通して、利用者様に適したコミュニケーションを図ることが全職員が実践出来る様指導している。	同法人運営の4ホームで統一された理念は、管理者会議と職員会議で常に理念に沿ったケアができるよう話し合い、利用者の心に寄り添った個別ケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として地元の行事である福祉フェアに参加したり、中学生ボランティアの受入れ福祉体験の講義を行っている。また、近所の方が畑の野菜を持って来たりと様々な交流がある。	認知症勉強会の依頼や中学生の福祉体験、また地域の福祉発表会で、利用者の作品展示をするなど、地域との交流が活発に行なわれている。落語やカラオケなどのボランティアも多く訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも介護相談の受付を行っている。また運営推進会議や地域ケア会議にて活動報告や研修内容の報告を少しでも知って頂ける様意見交換している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は揖斐、島合同で隔月に行っている。行事や研修などの活動や事業所内の近況報告を行っている。利用者様の認知症状など理解を深める場ともなり、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は隔月に開催し、行政、家族代表、自治会、民生委員が参加している。ホームの現状報告については、災害時の対応や認知症に関する意見があり、検討を行いながら、地域福祉の質の向上へと繋げている。	運営推進会議は平日開催されているが、家族が参加しやすい日にち設定を考慮されたい。また、運営推進会議の目的を再度、ふり返し、さらにより良い会議となるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	揖斐川町が主催する地域ケア会議に出席したり、揖斐川町の施設が参加する研修に参加し情報交換している。日頃より地域連携室の方や福祉課の方と交流を図り、相談や意見交換できるよう努めている。	行政とは、空室状況、高齢者の独居や困難事例等、情報交換を通して、良好な関係ができています。行政主催のケア会議や研修などには積極的に参加し、より良い利用者サービスに繋がるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の全体会議にて、身体拘束をしないケアを徹底している。また言葉による拘束についても勉強している。帰宅願望がある利用者様にも気持ちを受容している。点滴時も看護師が終わるまで付き添っている。	日常のケアから、職員の気づきを基に、身体拘束ゼロを目指す取り組みを行っている。転倒の可能性や危険性がある場合、その原因を職員間で話し合い、家族の同意を得た上で利用者の安全を第一に対応を行い、短期間で解除している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員の全体会議にて法令をもとに勉強会を行っている。施設で起きやすい事例をもとに職員同士虐待が見過ごされることがない様努めている。また職員が心にゆとりを持って働ける様、ストレスを軽減出来る環境づくりに努めている。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家 揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を用い、職員の全体研修で学び理解している。実際に制度についてご家族と話し合い、活用されている方もみえるため制度の必要性を感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居見学時よりパンフレットを用い説明を行い、実際入居される時にも契約内容、重要事項等、十分時間をかけて読み合わせをし、一つ一つ納得されるまで行っている。また随時質問を受付けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話で普段からコミュニケーションをとり意見を聴いたり、ケアプラン更新時に書いて頂いた意向をケアに取り入れている。接遇研修に力を入れ、皆が会話を通してご家族との関係作りができるように努めている。	近況報告書を家族に送り、利用者の日々の暮らしを家族に伝えている。家族からは「畑の手入れをさせてほしい」という要望があり、利用者の状態に合わせ、利用者の出来る範囲で、家族の要望に応えている。	接遇研修を行い、訪問家族に対しても、より良い対応ができるよう努めている。さらに、ホームと家族の信頼関係の強化を図り、訪問時に話し合える機会作りにも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回管理者会議を開催し、代表者と活発な意見交換をおこなっている。各管理者は職員からでた意見や要望を伝え改善できるように話し合いをしている。	代表や管理者は、職員の職場環境を常に意識しており、職員の表情を察したり個々の相談に乗るよう気配りをしている。その結果、離職率が少なく、利用者へのサービスに反映されている。勤務帯や休日などの希望を言いやすい関係にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の得意分野が生かせる様役割分担しやりがいのある環境づくりをしている。また家庭の事情に合わせた勤務体制に考慮し両立出来るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルアップを念頭に考え、経験年数と能力に合わせて積極的に研修に参加する様勧めている。また施設内でもケアのレベルアップが図れる様スキルアップ研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	揖斐川町主催の研修や協力機関の勉強会に参加し、他施設の職員と交流し情報交換や意見交換を行っている。看取りの方のケアや褥瘡の処置等指導して頂きケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ケアマネから情報もらい、ご本人が心穏やかに過ごせるよう対応している。また事前に面談するなどし、職員全体が必要とする対策を検討し情報を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時に利用者様、ご家族の悩みご希望をお聞きした上で、どのように支援していけるか話し合い、不安を解消し安心して入居出来る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する前に面会して現状を伺い、暫定ケアプランを立案して適切なサービスがすぐに行えるようにしている。専門職と連携を図りながら支援できる体制を整えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段から気軽に話し合えるような雰囲気を作るよう努め、一方的に行うだけの支援にならないよう心がけ、喜怒哀楽を共に感じ合える生活に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居説明時より常にケアプランと一緒に考えていける関係であるように努め、面会時には普段の生活の様子をお伝えしたり、近況報告を郵送または家族交流会を開いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方のご面会時には面会室を用意し、お茶、お菓子をお出しするなどして、なごやかなひと時を過ごして頂ける様心がけている。また、年賀状を作成したりアルバムを手作りしてお渡ししたりしてこちらから関係を深められるように工夫している。	知人や親戚、隣接する接骨院の患者が気軽にホームを訪れている。訪問者と利用者の談笑の場を大切にし、茶菓子等で、もてなしている。また、利用者が地元の喫茶店や飲食店にも足を運ぶこともあり、昔馴染みの関係継続ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの性格に合わせ、部屋替えを行うなどして、利用者様同士のコミュニケーションを図れる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方にも気軽に相談して頂けるようにお伝えしている。また他のサービス事業所に近況を伺い必要があれば相談支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりのお気持ちを把握し職員全体が共有している。意思表示の困難な方の時は、ご家族様からの情報やご本人の表情などをもとに利用者様本位の支援となるよう努めている。	利用者の表情や会話の中から、できることや好きなことを把握し、花や植木鉢の水やり、庭の草抜き、洗濯物畳み、居室のモップがけなど、一人ひとりのこれまでの生活歴と希望を活かしながら、日々の生きがいに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様のこれまでの生活歴や暮らし方を把握し、ご家族や友人等の情報収集などをもとにその人らしさを尊重できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントや会話を通じて一人ひとりの生活習慣や性格、病状、リスク等を把握してご本人が最も心穏やかに生活できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録にケアプラン目標を記載し、皆が意識し介護を実施している。ご本人に合ったケアができるようご家族様、医療機関と連携を図り、介護記録を利用してモニタリングできるよう工夫している。	日々の申し送りや介護記録、個別シートを基に、家族の要望と利用者に関わる関係者の意見を取り入れ、誤嚥や歩行などについては、医師からの指示を介護計画に加えている。身体介護だけでなく、精神的側面にも配慮し、適切に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護記録簿にその日の様子、ケアプラン目標に対してのモニタリングを行っている。心身の状況も記録し後日でも理解しやすい様努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族のニーズにお答えできるよう職員全体介護に取り組んでいる。レクリエーションや接骨院の先生による体操のコーナーも設け、利用者様の一日が張り合いのあるものとなるよう努めている。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家 揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を生活に取り入れ、充実した日常を支援している。地域住民と一緒に祭りや催しに参加し、楽しい時間を共有している。公園や、施設周辺の自然の変化に楽しみを持って支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医の希望を伺っている。当協力医は月に2回の往診や病状悪化した時の話し合いにも協力して頂き、利用者様やご家族と信頼関係を気づいている。	かかりつけ医は自由に選択できる事を、入居時に説明している。協力医の往診は月に2回あり、夜間の連絡も取れ、本人と家族の安心感が得られている。受診は家族同行が基本となっており、医療情報はその都度、ホームと家族、かかりつけ医の間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調管理は記録表にし、職員間で情報を共有し、変化の都度、看護師に連絡相談を行っている。主治医と連携し、迅速な対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時必ず介護サマリーを作成し、情報提供や質問に対応している。入院中は面会を通して容態を確認し、ご家族や相談員より状況を伺って退院後の受入れに努めている。退院時カンファレンスを行ったり、病院での研修に参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化、終末期等の方針を説明、同意を得ている。重度化してきた段階で医師と一緒に話し合いをし後悔のないようご希望に沿った支援を行っている。また、看取りの職員研修にも力を入れ、職員が気持ちを理解しながら落ち着いて対応できるように努めている。	入居時に重度化や終末についての説明を行い、常時医療行為が伴う場合は、主治医の意見と家族の意向を聞きながら対応している。過去の看取りでは、家族が泊まり込んで、利用者との最期のひと時を穏やかに過ごせるよう支援を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、迅速な対応が出来る様に職員全体会議や講習会等で研修し、能力向上に努めている。利用者様の情報を職員間で共有し、リスクを把握しいつでも対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の方の指導のもとに火災地震水害を想定し、日中や夜間を設定して利用者様、職員、近隣地域の方と共に避難訓練を行っている。また初期消火の指導も行っている。DVDで災害の意識付けを実地している。	消防署との訓練は年に2回、ホームの自主訓練は住民と共に年に1回行い、水害、火災、夜間を想定した訓練をしている。災害時には、地域に開放する福祉避難所ともなっており、住民にとって心強い存在となっている。備蓄は飲料水、食料、おむつ、薬など、利用者に必要な物品を備えている。	事業所は、福祉避難所として地域のよりどころになる存在である。災害時において、行政側と具体的な対応方法や取り決め等を話し合い、家族への緊急時の連絡方法や職員間の情報の共有にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格とこれまで生きてこられたかけがえのない時間を尊重し、保たれるように職員全員でケアに取り組んでいる。また日常的なプライバシー(トイレ、入浴、着替え等)にも気をつけ言葉かけを丁寧に行っている。	利用者のその日の状態や気持ちを受け止め、寄り添い、こまめな声かけを行っている。筆談や耳の近くでささやいたり、目線を合わせて話しかけ、話す内容や言葉かけが、プライバシーの侵害にならないよう留意し、日々の対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段より伝わりやすい言葉(短く)文字、表情、身振り(コミュニケーション)通して利用者様の希望を伺ったり、自己決定しやすいよう選択してもらえよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの思いや習慣を大切に、その人らしい一日を送れる様支援している。また他者外部との関わりも大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、パジャマより着替え(自ら選び)一日を気持ち良くスタート出来る様努めている。理容師の資格を持った職員がご本人の要望に合わせてカットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	目で楽しみ、におい、味や温度など感じながら食事をとると、五感を刺激する効果があるためホームの畑で収穫出来る野菜を採り、皮むき、筋取りを利用者様にやって頂き、食べる楽しみにつなげている。	利用者と共に、ホームの畑で収穫した旬の野菜を使い、下準備や調理作業、味見など、楽しみながら食事作りを行っている。食事中は利用者同士の会話が弾み、職員も同じテーブルにつき、会話に加わったり、食事介助を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師、栄養士、介護士が協力し、各個人に合った形態、カロリー、水分量を計算しながら提供している。またメニューにとらわれず嫌いな物がある方には代替えを提供し、不足しないよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯のない方やうがいの難しい方の口腔ケアには粘膜用ブラシなど使っている。口の中の食べかすや舌の汚れを少量の水で湿らせ絡み付ける様にして取っている。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家 揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を作成して、排泄の周期をつかむなど個別の特徴を把握し介助を行っている。また排泄状態に応じたおむつを使用、自力で排泄できるよう支援している。失敗されても言動に注意して優しい言葉遣いで接している。	入居時に紙おむつ使用の利用者が、職員の誘導と声かけによって排泄自立につながり、表情も明るくなった。歩行困難の人も徐々に歩けるように支援することで、トイレでの排泄が可能となり、自立度も高くなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録を付け、個々の身体を理解し運動または乳酸菌や繊維質の多い食品によって排便を促したりしている。便秘が改善されない場合は主治医と相談し、薬を処方して頂き対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人に入浴する意思を尋ね、プライバシー配慮と安全確認をしながら個浴を楽しんでもらっている。入浴日にい入らない方は別の日に対応し、季節によっては日数を増やし清潔で過ごせるように配慮している。	基本の入浴回数はあるが、利用者の希望に沿えるよう職員配置を工夫している。使い慣れた石鹸やシャンプーを用意し、個別の好みにも配慮している。季節に合わせた菖蒲湯やゆず湯など、楽しみながら入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身を穏やかにして就寝の準備をし、利用者様の就寝時間やトイレのサイクルを事前に把握し、睡眠妨害にならない様努めている。巡視時、安眠出来ているか確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的や用法容量について理解し、服薬できたか職員がチェックをし記録を行っている。月2回の定期往診の際病状の変化を主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を考慮し、洗濯たみ、庭の草取り等やって頂いている。また気分転換に散歩や喫茶店に行ったり、レクリエーション等楽しみごとの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	テラスに出て外気浴戸外の空気にふれて気分転換しながら、昔懐かしの歌や童謡を歌い楽しんで頂いている。また散歩、ドライブ、神社、バラ園希望により個々に外出対応をしている。	日々の天候に合わせて、周辺を散歩したり、庭やウッドデッキでの外気浴、お茶タイムなどを行っている。ホームでは季節ごとの外出行事があり、寺社参りや花見、バラ園見学や地域の福祉発表会などに出かけている。また、自宅での泊りや家族との外食にも出かけている。	

岐阜県 グループホームぬくもりの家 揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で理解ができる方は自己管理をして頂き、外出時等に使用している。自己管理ができない方は小口管理をしてお預かりし、希望的に使用できる様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙等の交流を大切に、個人に合った対応を支援している。個人情報の管理には細心の注意を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の周囲に季節の花々を飾り、心地よく過ごして頂ける工夫をしている。懐かしい曲を流し、職員と共に歌や会話を楽しんで頂いている。自室はなじみのある家具や置物、製作した作品を飾り、落ち着いた居室づくりをしている。	共用空間のリビングには、季節の花や鉢植えが置かれ、懐かしい和ダンスなどが調度品として飾られている。気温に合わせて空調を適切に調整し、風通しもよく、居心地良い環境となっている。リビングや廊下には、利用者が作った折り紙や手芸品などを飾り、落ち着いて過ごせる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、お好きな場所で過ごして頂ける様にテーブルやソファ、座りやすい椅子を用意し、個々が落ち着いて過ごせる様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が心地よい居室をご本人様とご家族様の希望を取り入れ、一緒に作っている。家具等の配置は、安全第一と行動の補助を考慮して工夫している。各部屋にはテーブルセット、ベッド、ソファ、タンスが備え付けであり住みやすいように配慮している。	利用者は、見慣れた揖斐の山並みや庭の草花を居室から見ることができ、心癒される環境にある。居室には、家族の写真や利用者の作品が飾られ、家具の配置も、利用者が使い易く、安全に暮らせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が安全に生活できる様に施設内はバリアフリー、手すり等が配置されている。利用者様が分かりやすい様にトイレや風呂は目印を付けている。		